

モノづくりとコトづくり

信和株式会社 代表取締役社長

則武 栗夫



➤ のたび、2024年6月の定時総会で理事に就任いたしました。信和株式会社 則武 栗夫です。
 ㄱ 微力ながら、業界の発展に尽力をいたす所存でございます。よろしくお願い申し上げます。

弊社は1982年から仮設工業会に入会させて頂き、ジャッキベースを起源に、緊結金具、枠組足場、くさび式システム足場等を生産して参りました。その中でも「シンワキャッチャー」は、くさび式システム足場のデファクトスタンダードとして現在に至るまで、多くのお客様にご愛顧を戴いておりますこと、ひとえにお取引先の皆様のおかげでございます。この機会をお借りして、心より感謝を申し上げます。これまでに生み出してきた数々の製品は、社会資本の整備を支えるために、欠かすことができない存在であり、モノづくりを通じて社会に貢献できることが、私たちの小さな誇りでございます。

そして、さらに社会ニーズの多様化に応えるため、これからコトづくりも行っていく運びとなりました。この春、東海エリア最大の仮設施工会社であるヤグミグループをグループ化し、モノづくりのみならず、地元で仮設施工・その他専門工事の分野にも展開して、施工ノウハウの活用や優秀な人材の育成を図ります。これからの建設業は都市再生や地方創生などで大きな役割を果たすとともに、震災復興、防災・減災、老朽化対策など「地域の守り手」としても重要な役割を担っております。一方、現場では高齢化が進んでいることから、若者をはじめとする担い手の確保を図るとともに、時代に合った働き方改革に取り組んでいくことが重要となります。誇りを持って仕事に打ち込める環境整備を行って参ります。

さて、足場からの墜落・転落災害を防止するのに有効な、手すり先行システム足場は、次世代足場という名称で普及が進んで参りました。この次世代の「世」という漢字は「三十年を一世と為す」という言葉から「十」を三つ重ねて作られた文字とのこと。そしてわが国の仮設機材は、気付くと約三十年を一区切りに進化してきた歴史がございます。1952年に現在の枠組足場のもとになるビテイ建枠が輸入され、その三十年後にくさび式足場が誕生し、その三十年後に次世代足場が登場しました。近い将来となりますが、この次の次世代はモノづくりを中心とした優れた仮設機材だけではなく、コトづくりから生み出された次世代DX〇〇〇かもしれません。安全性や経済性がさらに進化して、イノベーションが起きていく未来を考えるだけで、ワクワクが止まりません。私たちはモノづくりとコトづくりの一体化で、少しでも社会に貢献できれば幸甚に存じます。

これからの仮設工業会と会員の皆様が益々ご発展することを祈念して、理事就任のご挨拶とさせていただきます。